重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	適正にごみが分別され処理されている		年度	平成27年度
			責任部長	環境部長
			主担当課長	施設管理課長
施策名	ごみを適正に処理する	No.27	関係課	清掃対策課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
資源物を確実に分別していると自信のある人の割合（%）	↗	76.6	75.3	77.7	79.1	78.1	82.7	82.5
		82.7	81.1	80.9	79.4			87.6
最終処分場の利用可能残余年数（年）	*	7.9	7.2	11.8	12.4	16.3	13.3	6.3
		13.3	13.1	12.4	12.8			5.2
生ごみ処理機やコンポストを利用している世帯数（世帯）	↗	8,588	9,093	9,406	9,569	9,688	9,802	9,250
		9,802	9,876	9,960	10,032			10,188

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

現在、地球温暖化や有害物質による環境汚染といった環境問題とともに、廃棄物の処理過程で発生する環境汚染や最終処分場の確保なども問題となっている。国では、生産から流通、消費、廃棄に至るまでの物質の効率的な利用やリサイクルを進めることで、資源の消費を抑制し、環境への負荷が少ない「循環型社会」を形成することを目指している。各家庭でも、可燃・不燃・資源などの分別に対する意識が定着し、町内会や各種団体でも資源回収が実施されている。さらには、小中学校においても、環境配慮の重要性を理解するための環境教育が行われている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	「最終処分場の利用可能残余年数」と「生ごみ処理機やコンポストを利用している世帯数」の数値については、順調に推移している。一方、「資源物を確実に分別していると自信のある人の割合」は、約8割と高い数値を維持しつつも、減少傾向にある。総合的に判断し、施策全体の評価としては、順調に目標値に向かっているとは言えないため、停滞気味となる。

評価がB・Cの場

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
適正にごみが分別され搬送されている	ごみを適正に処理するための施設が整備され維持管理されている		
可燃・不燃・粗大ごみ収集事業	埋立処分場確保事業		
	可燃ごみ処理事業		
	埋立ごみ処理事業		
	リサイクルセンター整備運営事業		
	環境センター基幹的設備改良事業		
	施設の維持管理事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果は、「適正なごみの分別処理」に対して、「出す立場」と「処理する立場」に分かれており、モレなくダブリなく設定されている。また、各事務事業についても、長期成果を達成するために必要十分である。一方、資源物を確実に分別していると自信のある人の割合は、個々の考え方や意識によるところが大きいため、今後も継続して意識啓発をしていく必要性がある。
次年度の改善計画	広報等の紙媒体やイベント時の啓発に加えて、「ごみと資源の分け方・出し方辞典」（平成26年11月改訂）の活用や、ごみの分別区分や収集日を調べることができるウェブアプリ 「一宮市ゴミチェッカー」の導入（平成27年7月公開）により、「分別ルール」を周知していく。

＊＊＊